発行：令和６年４月25日　秋田県産米改良協会

田植えは好天日に行いましょう！

１回目の代かきは、田植の２週間前までに終えるよう計画的に行う
田植時の防除をしっかりと行いましょう

１　代かき２回と除草剤散布

○ こぼれ籾を発芽させて埋め込むため、代かきを2回とし、1回目の代かきから7日経過後に2回目の代かきとプレチラクロール（**出芽直後の稲に除草効果あ除草剤名は、ソルネット粒剤とエリジャン乳剤となる。**）を含む除草剤の散布を行うこと。
なお、代かきを2回できない場合は、JA等に相談し指示を受けること。

＜代かき体系＞
代かき１回目　⇒　７日以上経過　⇒　代かき２回目：除草剤散布　⇒　７日後に田植
※　１回目の代かきは田植予定日の１４日前には終える必要があります。

２　田植え作業

（１）好天時に行う
○ 田植えは日平均気温で稚苗13℃、中苗14℃以上の日とし、できれば日中の最高気温が20℃以上の日とする。
○ 最高気温が15℃以下の場合や強風時には行わない。

参考：　高温登熟を可能な限り回避し、収量と品質の維持が可能なあきたこまちの好適出穂日は、鷹巣：8月４～９日、秋田：8月６～20日、横手：8月７～16日です。
この時期に出穂させるための田植時期（中苗の場合）の目安は次のとおりです。
鷹巣：5月15～20日頃、秋田：5月20～25日頃、横手：5月20～25日頃

（２）品種の取り違え防止
○ 他品種との混合防止のため、苗運びや田植え作業の過程では、必ず品種ごとに区切りながら作業を行う。

（３）いもち病・ごま葉枯病防除　*（ごま葉枯病防除対策が強化されました。）*
○ 次のいずれかの方法で行い、6月中旬にオリゼメート粒剤2kg/10aを散布する。

薬　剤　名	施 用 量	施　用　時　期
ブーンパディート箱粒剤または ブーンレパード箱粒剤	50ｇ/箱	移植当日
オリゼメート顆粒水和剤	250ｇ/10a	移植時（側条ペーストに混和）
コープガードＤ12	20～50kg/10a	移植時

（４）栽植密度等
○ 安定生産に必要な強勢茎主体の穂数を確保するため、栽植密度を70株/坪以上とする。

苗様式	目標葉数	㎡当株数	植込本数	10ａ当箱数	植付深さ	
稚苗	2.0～2.5葉	21.2株以上	4～5本	19箱程度	2cm	3cm以上の深さにしない
	（無加温出芽）3.0～3.5葉					
中苗	3.5～4.0葉	21.2株以上	3～4本	27箱程度	2.5cm	

３　田植え後から活着までの管理

（１）水管理
○ 浮き苗が流入・流出しないように、水口、水尻に金網等を張って異品種の混入を防ぐ。
○ 活着（通常4～5日で活着する）は、気温・水温とも高いほど早くなる。この時期は水温のほうが気温に比べて日平均で3～4℃高いので、保温効果を高めるため水深4cm程度の湛水状態を保つ。
○ 活着したら浅水管理とし、水温と地温を高め分げつを促進させる。

（２）補植の禁止
○ 出穂期のズレや品種混合を避けるため、補植は行わないこと。

４　ほ場掲示板の設置

○ 掲示板に必要事項を記載のうえ、表示すること。
○ 品種名は原則として記号表示とし、、生産者の住所、氏名は記載せず、生産者番号を表記すること。（具体的には、JA等へ問い合わせください。）

５　こぼれ籾からの実生苗の除去作業

○ 田植後はほ場を注意深く見回り、株間や条間にこぼれ籾から発生した苗を発見したときにはすぐに抜き取る。（浮き苗についても同様とする。）
○ 実生苗の除去作業は、2回行う。時期は次のとおり。

１回目	田植え後２週間ころ
２回目	６月１５日前（オリゼメート粒剤散布前までに終える。）

６　気象情報

○ 気象庁の1か月予報（4/27～5/26）によると
・暖かい空気に覆われやすいため、気温は高い見込み。
・降水量、日照時間はほぼ平年並みの見込み。

７　病害虫の発生予察情報

○ 秋田県病害虫防除所が4月24日発表した5月の主な病害発生予報は次のとおり。

病 害 虫 名	発　生　量
苗いもち	平年並（前年並）
苗立枯病	平年並（前年より少ない）

８　代かき実績報告書の提出

○ 添付している「代かき実施報告書」を品種ごとに記載のうえ6月7日までにJA等の担当者へ提出してください。

たね屋のひとりごと
○　夏場のヒエ抜き作業は過酷です。除草剤の効果を十分に発揮させるためには、耕起・代かきでの田面の均平化が大切です。

次　号　本田編は、６月上旬発行予定です。